

・・・カーボンニュートラルの連載を終えて・・・

小規模なソーラーパネルと蓄電池の活用

桐ケ谷市長の「チャレンジ！逗子カーボンニュートラル 2050」宣言を一つの契機とし、「カーボンニュートラル（CN）」を同年・令和4年3月号から令和6年6月号までの、2年数か月の長きにわたり本誌に連載しました。終了したこの機会に、改めてCNについて考えてみたいと思います。

CNとは何か。・・・地球が温暖化し、その結果として日本では猛暑や集中豪雨等の異常気象の発生、島嶼諸国では海水面の上昇と陸地の減少、等々の異常な自然現象が地球規模で現実のものとなっています。温暖化は、産業革命以後人類が石炭・石油等の化石燃料といわれる資源を多量に使用した結果、炭酸ガスを主とした温暖化ガス（GHG）が地球の周りに蓄積して熱の拡散を抑えてしまったことが原因とされています。この地球規模の「気候危機」を克服するために、2015年にパリ協定が採択されて、世界共通の長期目標が採択されました

- ◆1. 世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2度Cより十分低く保つと共に、1.5度Cに抑える努力を追求すること（2度C目標）
- ◆2. 今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成すること（＝カーボン ニュートラル、CN） これがCNです。

目標の達成は2050年という今から25年以上先にというのだから先の長い計画ですが、考えるにそれだけの期間をかけなければ達成できる見込みがない、壮大な計画なのです。

主たる対策はエネルギー源を化石燃料に代えて、太陽光・風力・水力等炭酸ガスを発生させない自然エネルギーに代えていくこと。代替が本来難しいうえに、今改めて古くて新しい重要な課題が提起されています。ロシアのウクライナ侵攻を契機に改めて認識されたエネルギーの自給と確保、そしてエネルギーコストです。日本のエネルギー自給率はわずか12%、世界的な天然ガスの取り合いと価格の高騰、そして太陽光、風力共に不利な立地条件から生じる再生エネルギーのコストの課題です。これらの課題解決は、3年ごとに行われる国の「エネルギー基本計画」の中で討議されていきます。

この地球規模の大きな課題に対し、私たち消費者はどう対応してきたか。エネルギー転換の前に、無駄なエネルギーを使わない、省エネルギーを実行してきました。身近なクールビズや公共交通機関の利用、省エネされた電気機器への交換やLED照明の採用等々、そして3R（Reduce, Reuse, Recycle）の実行です。その典型的な例が「マイバッグ」であり、「ペットボトルの回収・再利用」です。

住宅でのエネルギー消費をゼロにする（ZEH：ゼロエネルギーハウス）がこれから普及するでしょう。ZEHは、住宅の断熱性をよくすると共に、ソーラーパネルと蓄電池を使用してエネルギーの自給と貯蔵を図ります。このソーラーパネルと蓄電池の活用が、大きな力ぎを握っていると考えています。

最近、性能・安全性・耐久性に優れたリン酸鉄リチウム系の小型蓄電池が普及し始めています。この小型（ポータブル）蓄電池（500～1KW程度）と1～2枚程度のソーラーパネル（100W程度）を組み合わせ、オフグリッド（注）で自宅の書斎や居間など一部の部屋の照明に、日常的に活用されることをお勧めします。CNへの寄与もさることながら、発災時の停電への備えとして、強力な味方となるからです。（注）電力会社の商用配線とは無関係の配線

省エネへの努力は、一つ一つは小さいといえども、大きくまとまってCNへ貢献するでしょう。

校区住民協 理事 鈴木 為之

令和6年9月度役員会

開催日時と場所：2024年8月3日（土）

13時00分～15時00分、久木会館

出席者：15名（内役員11名）

議題

(1) 行政からの連絡事項

①講演会の件

逗子市市制70周年を記念して開催される認知症に関する講演についての紹介があった。

②高齢者の健康維持に関する施策について

高齢者を対象とした健康維持活動について紹介があった。

(2) 事務局からの報告事項

①逗子市住民協連絡会(7/26開催)の件

今回のテーマは防災で、各住民協の防災体制の現状を確認しあう会であった。

各住民協さまざまであったが、地域の自主防災組織がいかに情報を収集し、地区防災拠点にいかにも迅速に伝達するのかが重要であるとの認識で一致した。

秋に実施される防災訓練では、今まで避難所中

心であった訓練を、在宅避難者も含めた訓練にしていくことが認識された。また、各住民協の活動は防災を柱にして展開してゆくことが有効であるとの意見合意があった。

一方、「住民協条例」の制定が、逗子小学校区の住民協が結成されないことから棚上げ状態になっている件に関し、速やかに制定するよう要求した旨報告された。

(2) 審議事項

①地域防災体制/無線機体制について

配布資料（免許局無線機の管理と地区防災拠点の支援に関する運用要領/災害時の情報収集・伝達イメージ図/デジタル簡易無線機の通話範囲/デジタル簡易無線機の本体及び付属品）を基に、防災無線に関する住民協・自治会の対応について説明された。

本件に関連し、「山の根会」に自主防災組織が結成され、市の承認を得た事が報告された。

本事案に関し、下記のような意見が出された

- ・運用要領の制定に関連する住民協規約に関し、第40条を根拠としているが、総会の合意が必要となるので、第39条の会長が必要と認める規則とすべき。

- ・運用管理者の作業が多く規定されているが、技能が必要な部分もあるので、無線機メーカーをバックアップ組織として規定の中に取り入れるべき。

②久木小学校改築最終設計の報告（教育部）

7/16に、首題の件につき説明があったことが報告された。本件に関しては何回がワークショップが開催され、要望事項などが出されたが、その内容を踏まえた設計である事を確認した旨報告された。

③住民協ひろばの特別号の件

「地域と学校」というテーマを考えていたが、関連する人々が異動になったばかりなので、難しいとの判断で、人のつながり、絆をテーマの

ベースとした「地域サロン活動」を特集することになった。

瓶子氏より、対象のサロンは住民協・自治会が開催するものに限定し、個人開催サロンは対象外とする旨説明があった。また、今認識されている8つのサークル以外に自治会が実施しているものがあれば、申告するよう要請された。

今後、編集内容が確定した段階で、各サークルの主催者に対し、記事の記載を各自治会長から依頼するよう要請された。

本件に関連し、久木小学校の改装についての記載を入れるべきという意見が出されたが、テーマと合致しないので、月刊の住民協ひろば、または来年度以降のテーマとして有望な「地域と学校」の特集の中で、取り上げるようになった。

④その他

a) 7/14開催の久木朝市の件

今回目玉商品とした、三浦スイカが甘くて好評であったことが報告された。

b) 久木会館大型TV設置の件

宝くじの助成金を得て、大型TVが設置されたことが報告された。尚、設置台と設置工事費は、市の市民協働課の同意を得て、住民協の組織運営経費から出費することが報告された。

c) 災害時の通報に特化した、スマートホン使い方講習会開催の件

首題の件に関し、逗子デジタルサポータズの協

力を得て実施を検討していることが報告された。

d)防災フェアの件

減災部会で、11月の防災訓練に先立って、防災意識の向上を目的として、10月26日(土)に防災フェアを開催する予定であることが報告された。

内容は防災備品展示、アルファ米の炊き出し、マンホールトイレの展示、防災関連ゲームなどを企画しているが、詳細は今後検討していく予定。

e)みんなのカフェのぼり旗の件

首題の「のぼり旗」3枚が作成されたことが報告された。

《寄稿》 Line を交換したのです それも小4と

2024.5.15

駄洒落栖人

ここ富岡の地域にサロンが10か所あります。そのうちの一つ「じゅびのえんがわ」というところにボランティアで週一出かけていきます。細野さんは学校の先生だったかということでも色々あるボランティアのうち「ほんぼんたいむ」と名のついた小中学生を対象として学習支援をしているプログラムがある。学習支援と言っても子どもたちが自分で宿題をやったりして側におばさんおじさん先生がついているくらいの感じ、多くはおじさんおばさんと雑談してため口聞いて、楽しい時間を過ごすのです。

そこに小6のお姉さんときている小4のK君がいる。Kくんとは3度目の顔合わせ。

おばさん先生が3人いましたが、出会いは、彼は男性。男性の先生は私だけだったのがきっかけだったのです。二度目の時に「また、おいでよ」と声かけました。それで三度目は私目指してきてくれたのです。

彼は大きな素敵な漢字が書けます。それをしっかりと褒めました。複雑な画数の漢字もバランスよく書けます。褒められて恥ずかしそうに照れるだけでしたから「褒められたらね、ありがとうございます」って言うといいんだよ、と教え

ましたら直ぐに使いました。「ありがとうございます」目を見てしっかりと返事ができました。三度目の学習に時に国語辞典がありませんから、書けない漢字をスマホで調べ出して、見せてあげました。お勉強が終わりました。

突然彼がスマホ(自分の)を取り出して「line、交換してください」驚いている暇がないくらいの速さでQRコードを差し出して読み取ってくれました。

「おつかれオツカレー」ってイラストを送ってくれました。

「ありがとうございます」ってクレヨンしんちゃんを送りました。

「長嶋茂雄の写真」を送ってくれました。彼が打ったホームラン1号の野球ボールの写真を送ってくれました。

聞くと地域の野球少年だったのです。「将来は甲子園？」と聞くと「プロ野球」って答えてくれました。彼は10歳、私は75歳。Lineでつながったのです。

孫でもありません。友情でつながったのです。

(校区住民協 監事 細野 裕)

《レポート》 久木朝市と毘沙門西瓜

住民協で開催している久木朝市で、三浦・毘沙門のスイカが定番となりました。三浦・毘沙門の小玉スイカの時期に合わせて7月10日前後に開催する朝市で提供しています。今年は7月14日開催で50玉を提供、30分ほどで売り切れ

鈴木 為之(山の根在住)

となりました。

好評なのは、価格もさることながら、三浦西瓜の特徴といわれるサクサクとした舌ざわり、風味、そして程よい甘みと共に、やはり取り立てスイカを前日に仕入れる新鮮さでしょう。仕入れは

冷蔵庫に入れることを考慮して小玉スイカ中心にしていますが、売れ筋をみるとその中でも中玉に近いやや大きめの小玉スイカが好評です。多分核家族にとってやや大きめの小玉の方が、ボリューム感があって食べごろだからでしょう。仕入れ先は三浦市毘沙門の専業農園、当会監事の細野さんが昨年まで住まわれていた所の向こう三軒両隣の農園で、周りはスイカ畑で囲まれています。朝市開催前日の午後、細野さんと二人で目指す農園に軽トラで仕入れに出向きました。そしてその夜に販売の準備を済ませます。西瓜は原産地は熱帯アフリカの砂漠地帯、もともと乾燥・高温の環境を好む植物で、今でも世界の主産地は、その8割を占める中国の他はトルコ・イラン・ブラジルといった乾燥地帯です。水はけのよい三浦の土壌と日照、そして生育環境に合わせた栽培や品種の改良努力が、三浦のスイカを育てているのでしょう。昭和のはじめ、まだ冷蔵庫や小玉スイカのないころは、お盆の頃の朝、大玉のスイカを井戸につ

るして冷やして、大家族で食べました。スイカを食べるのが上手な人がいて沢山食べてしまう。よく言われたのは、「種を食べるとつるつるしているの、盲腸へ入って（芽を出して）盲腸炎になるから種は食べてはいけない」。昔のスイカは種が多かったことを利用して、これはスイカを早食いさせない「はかりごと」だったようです。

因みに小玉スイカが出始めたのは、JRで特急「こだま」が走り出した

頃です。上の写真：8月のスイカ畑、

下の写真：5月のスイカ畑



編集後記

アメイジング グレイスについて・・・夏に入り暑い日が続くが、心が洗われる様な美しいメロディーのアメイジング グレース（和訳：驚くべき神の恵み）について書いて見る事にする。

この曲はその旋律の美しさから広く親しまれ、ドラマのBGMやCMでも使われる名曲である。この曲はそのタイトルが示すように「讃美歌」（カトリックの呼称、プロテスタント、聖公会は「聖歌」と云う）の中の一曲である。調べてみると作詞は18世紀の英国の牧師 John Newton が作り、作曲者は不明で英国の民衆歌から取られたと云われる。John Newton はもともと、英国の奴隷商人で巨万の富を築いたが、過去の自らの行いに後悔し、牧師に転身した経緯があると伝えられている。

当曲の冒頭の部分の詩は以下の通りである。

Amazing grace, how sweet the sound,
That saved a wretch like me
I once was lost, but now am found
Was blind, but now I see,

驚くべき神の恵み 何と美しい響きだろうか
私の様な卑劣な者まで救って下さった
私はかつて道を失ったが今は見出せる
今まで 見えなかった神の恵みが今は見える

この曲は英詩の「wretch」卑劣な、悲惨な」と云う言葉が入っている事から、悲惨な境遇にあった黒人やマイノリティーの社会で広く愛され、今は米国の第2、第3の国歌とも云われている様である。

キリスト教の歴史は長く、讃美歌の中にはバッハやシベリウス、地域の民謡や様々なものが含まれていて大変興味深い。「アメイジンググレイス」もエルビス プレスリー、日本でも本田美奈子等様々な歌手が歌い愛されている。

事務局長 石井 達郎